

2024_1025「初雪のオーロラ（写真）」日々の理科 3732号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

日本ではまだ暑い日が続く地方もありますが、スウェーデン北部の北極圏では秋が終わろうとしています。10月中旬には初雪が降り、現地に設置したカメラも、雪景色のオーロラの写真を撮り始めています。

12月から2月にかけての真冬のオーロラ写真と一番ちがう点は、まだ湖が凍っていないことです。この写真に写っている湖は、厳密に言うと「湖」ではなく「Stora Lulevatten（ストーラ・ルーレ水系）」という、水力発電の為に「ルーレ川」を堰き止めて作った「貯水池」のようなものです。この湖水のほとりにある「Porjus（ポルユス）」という小さな村も、水力発電所の為に作られた村です。

私はこの村に10回以上滞在しているのですが、いずれも湖が完全に結氷している時期ばかりで、このような湖面に反映するオーロラは一度も見たことがありません。太陽の黒点活動は来年ぐらいまで活発な状態が続き、それに合わせてオーロラの活動も続くので、来年の秋にはどうしても現地に行きたいと思っています。

写真では雪面が緑色に照らされていますが、実際に明るいオーロラが出現すると、肉眼でもこのように見えます。

(2024年10月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

